
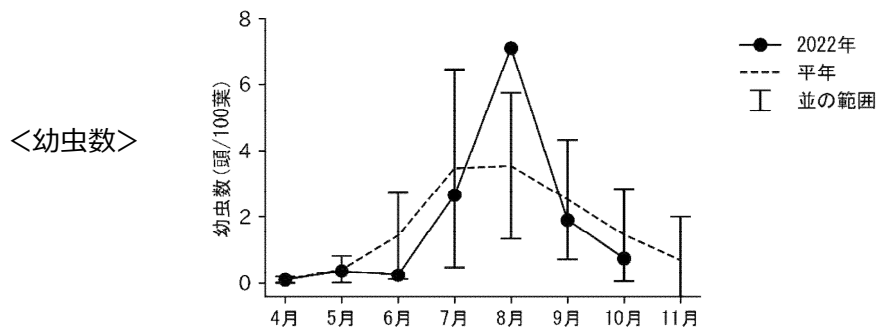
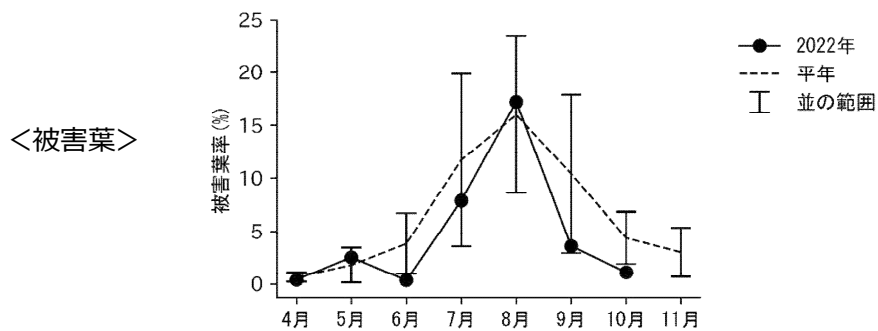


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予 報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率77.8% (平年 : 86.7%)

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづられた葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。

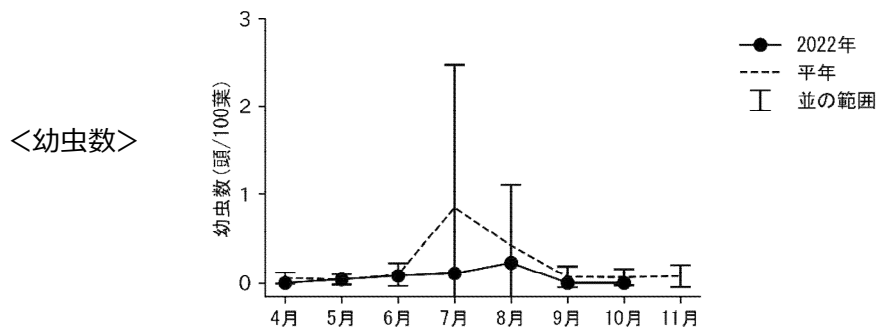
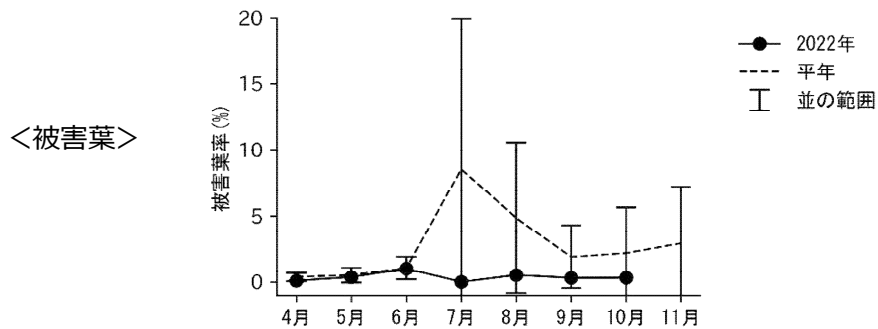


被害葉 (つづられた葉)

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	ナカジロシタバ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率44.4% (平年 : 35.0%)

防除のポイント

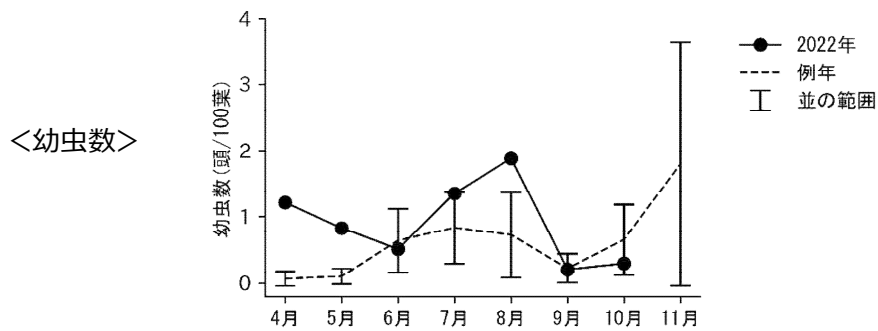
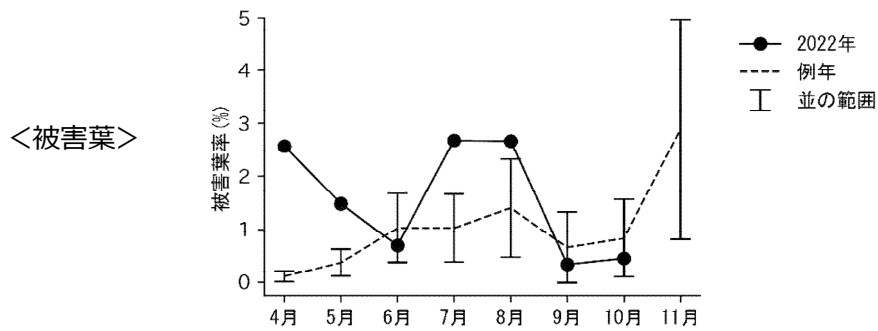
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



調査結果

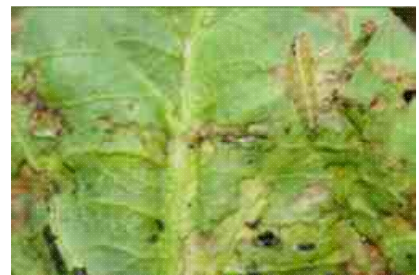
今期と平年の発生推移




・発生ほ場率44.4% (例年 : 62.5%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

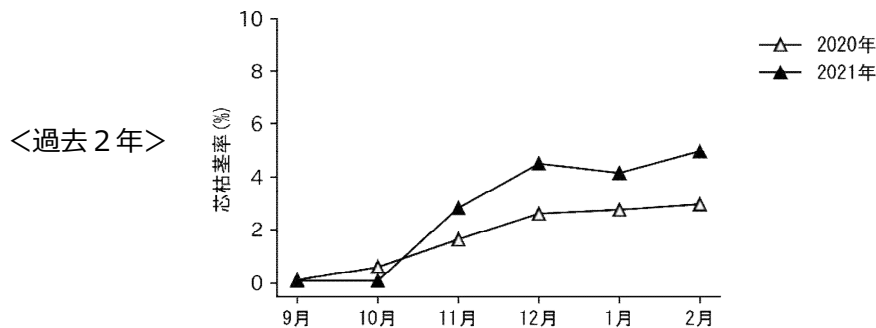
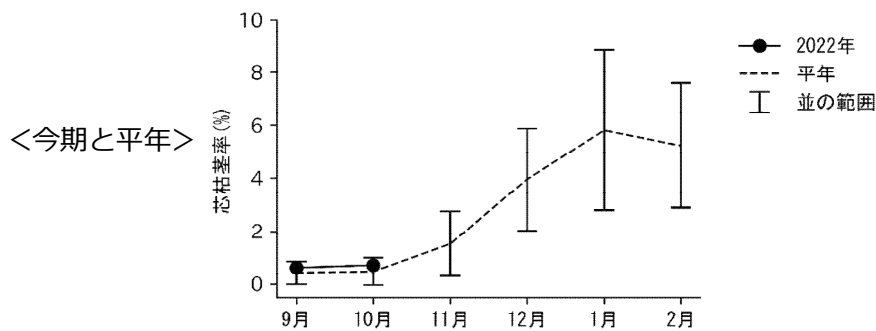


被害葉

作物	さとうきび	地域	沖縄群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)			並
予 報	10 月からの増減傾向			↗
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



・発生ほ場率37.5% (平年 : 33.3%)

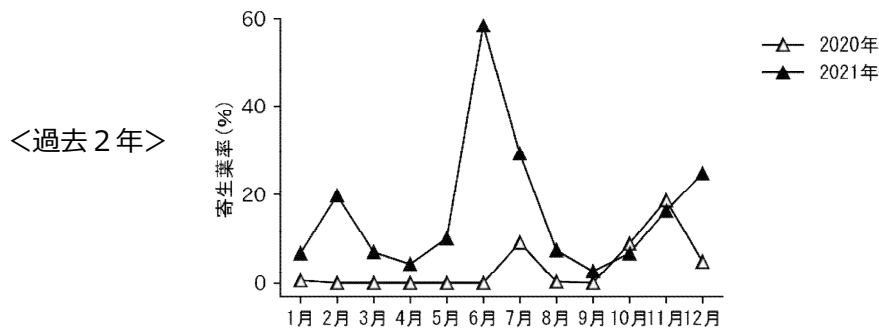
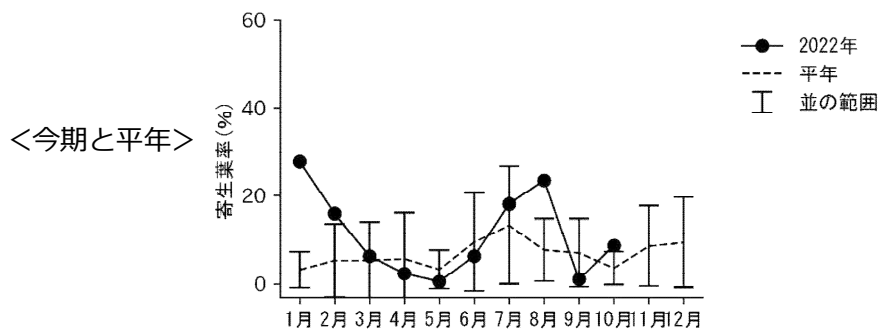
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生葉率の推移



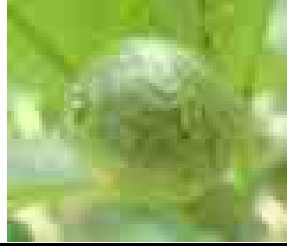
- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率80.0%（平年：35.6%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

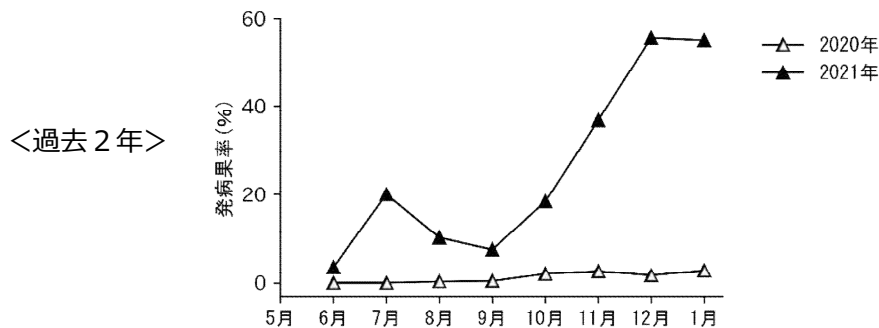
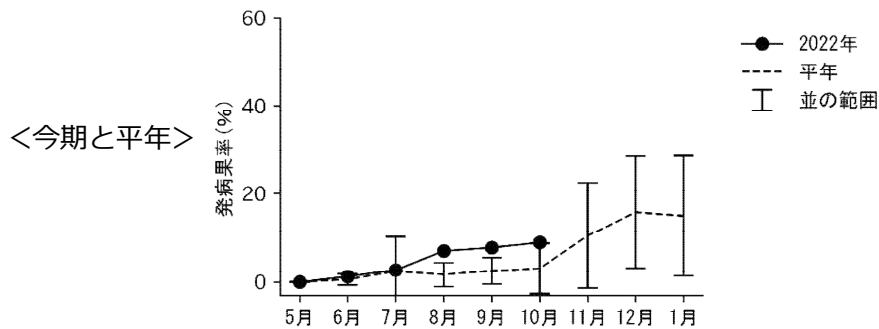


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒点病		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度2.3（平年3.2）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：38.6%）

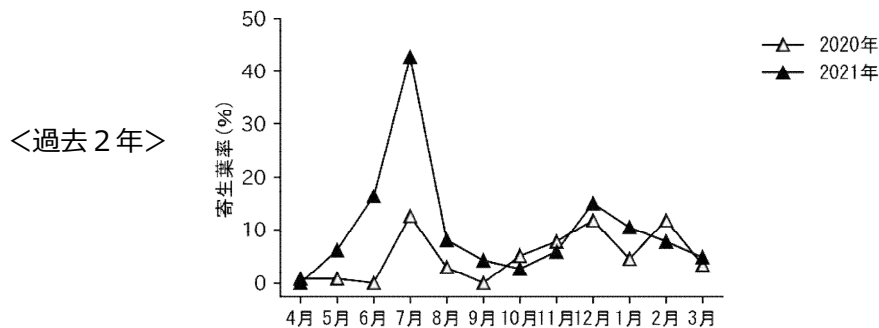
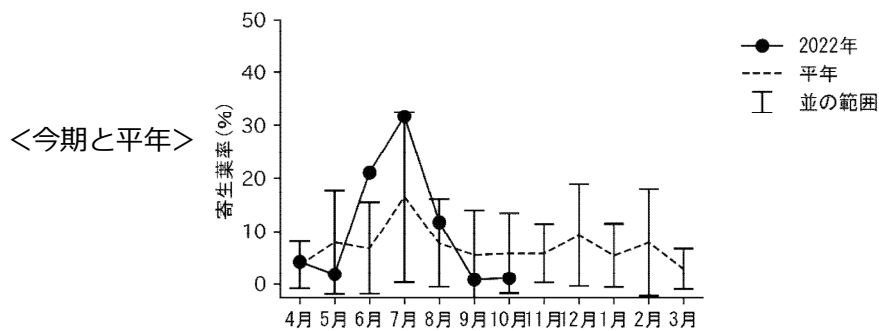
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：36.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

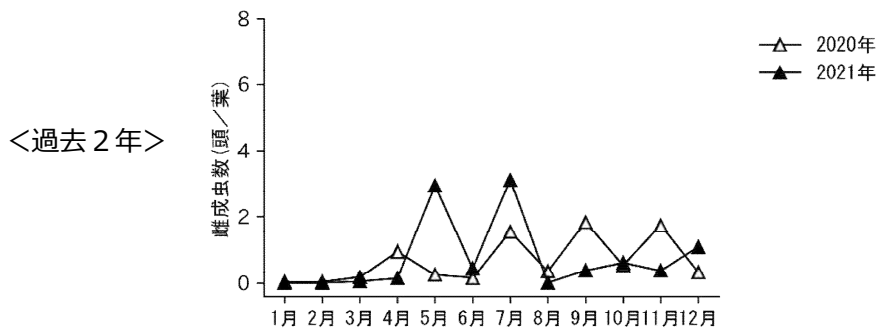
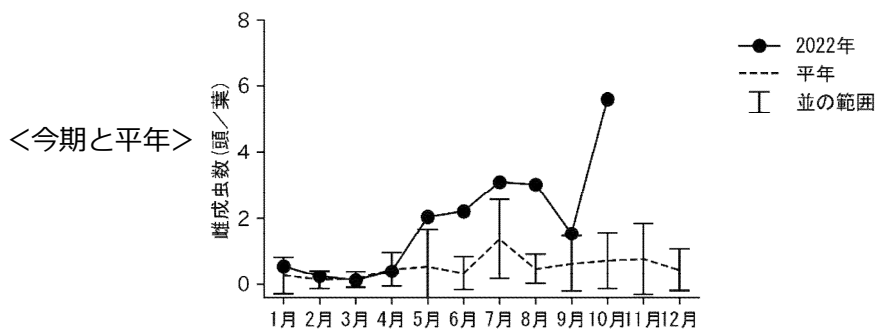


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

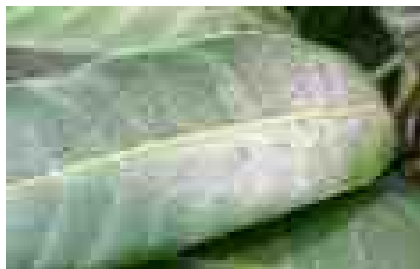
雌成虫数の推移



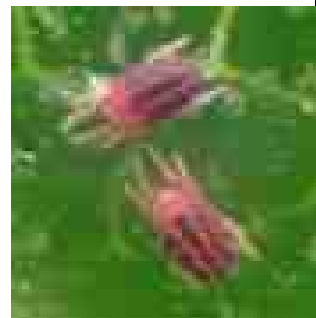
- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率62.5% (平年：56.8%)、一部施設で多発

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

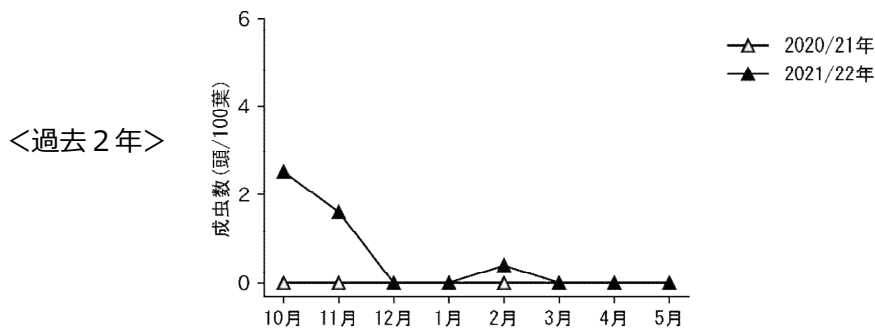
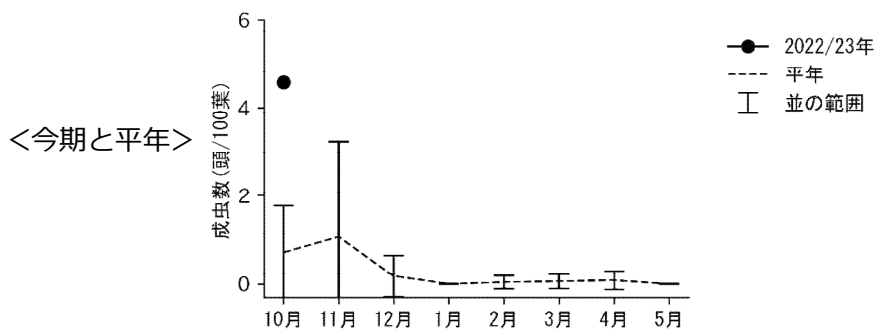


マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ				
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報	10 月からの増減傾向	↗			
	11 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)			

調査結果

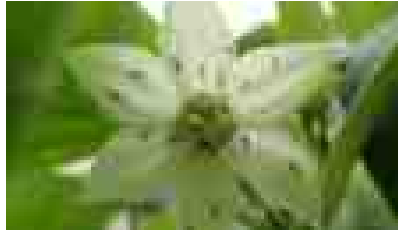
成虫数の推移



・発生施設率57.1% (平年：17.9%)、一部施設で多発

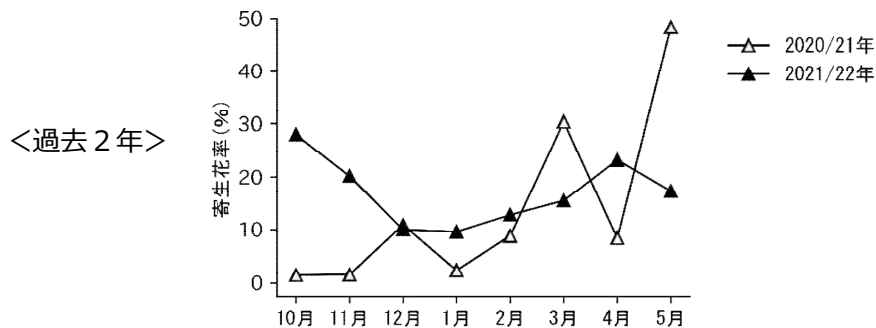
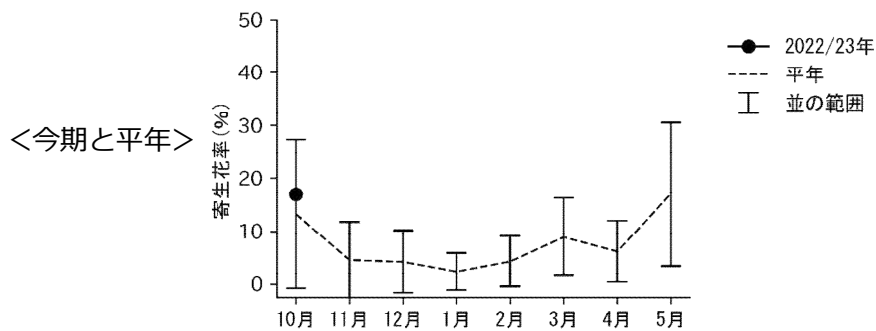
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率85.7% (平年 : 33.3%)

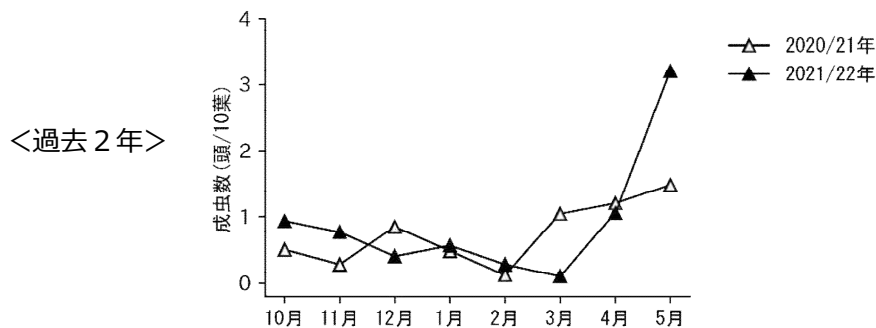
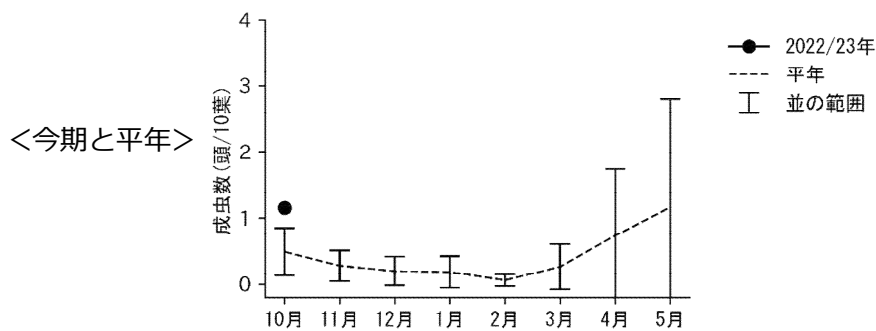
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率85.7% (平年 : 59.0%)

防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

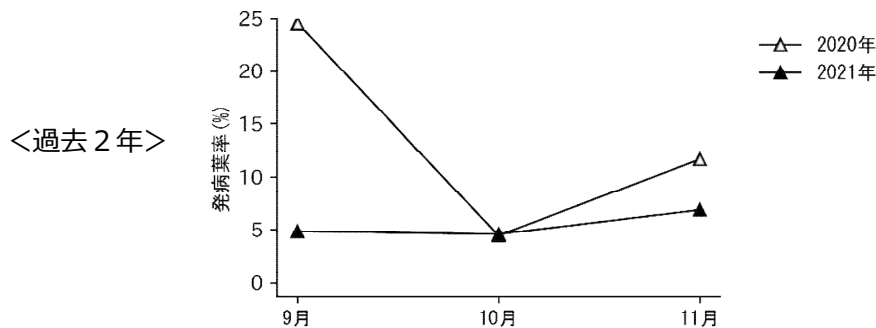
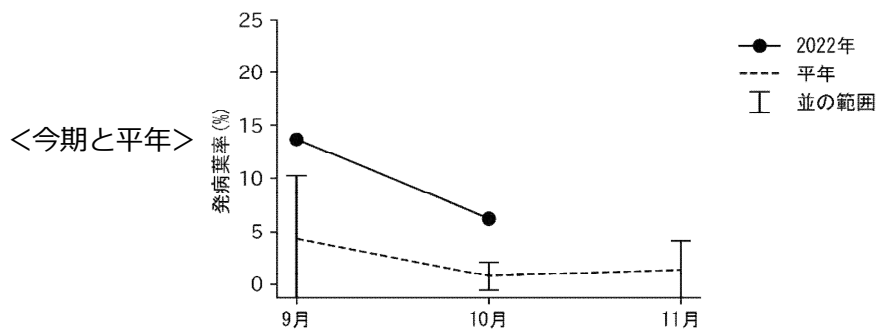


幼虫

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：16.7%）、一部ほ場で多発

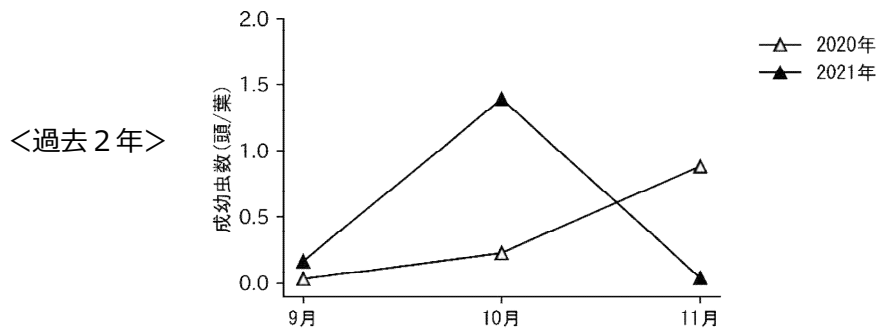
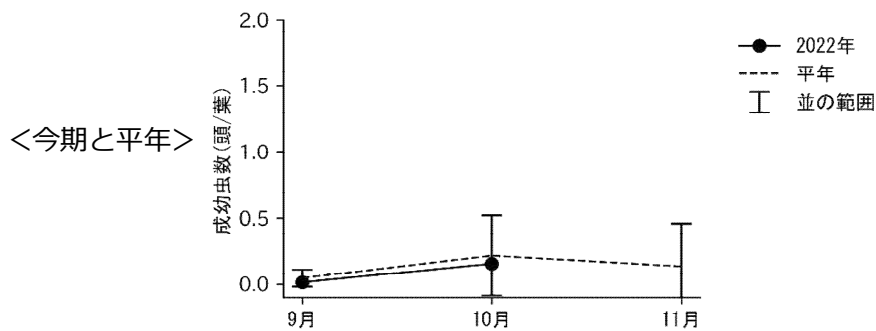
防除のポイント

- ・ 苗は健全株から採苗する。
- ・ 発病葉は速やかに除去する。
- ・ 肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ ほ場の排水・通風を良くする。
- ・ 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100%（平年：45.5%）

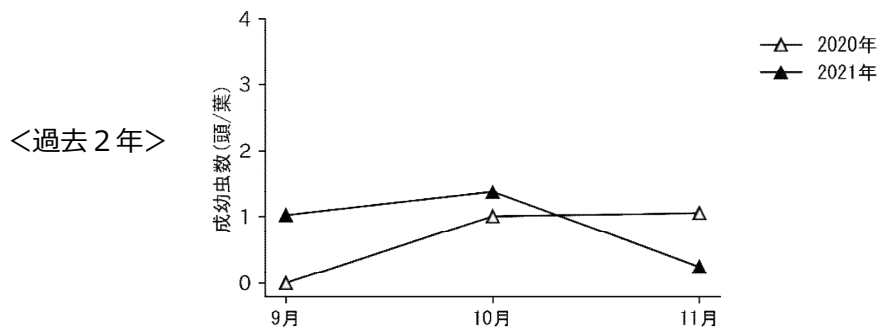
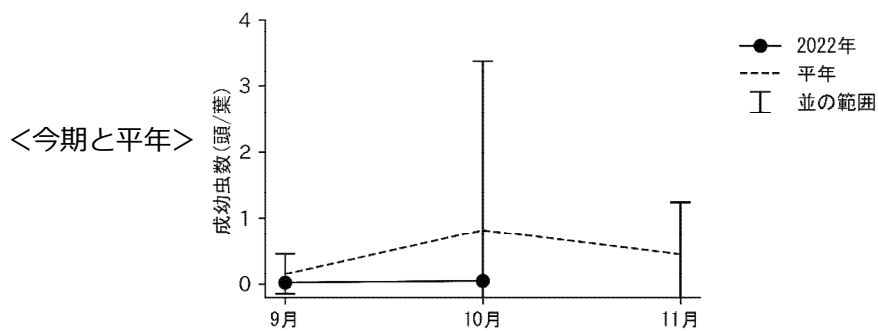
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマ類が増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

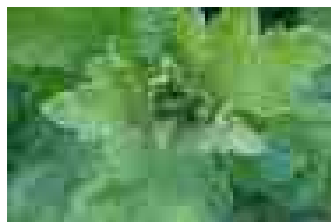
成幼虫数の推移



・発生ほ場率75.0% (平年 : 33.3%)

防除のポイント


- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



被害の様子

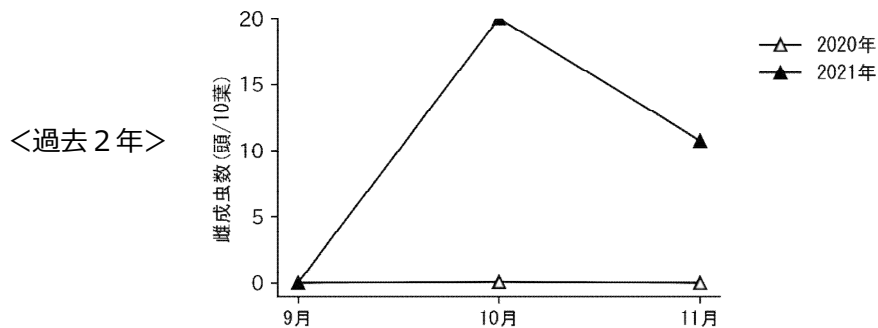
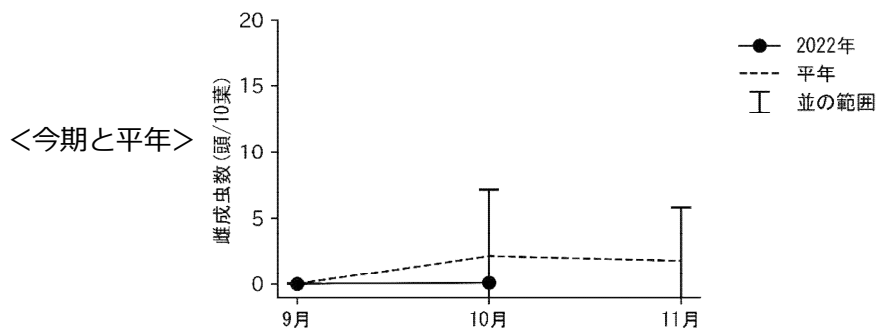


有翅虫

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 12.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。